

南 俊 輔 MINAMI Shunsuke

—略歴—

1985年北海道生まれ。フィルム映写機などの映像機材や映写技師による映写の行程など、映画周辺の環境に着目し、インスタレーションの制作やパフォーマンスを行う。近年はスライド映写機を素材にした作品を主に制作。映写機の持つ本来の機能やその意味を分解・再構成し、映像の合成や変換を試みる「実験」を行っている。

—活動歴—

〈個展〉

2019年「南 俊 輔 4分25秒の映画」(玉川大学3号館102展示室 / 東京)

〈グループ展〉

2018年「JR TOWER ARTBOX 授賞作家展 拡散した光彩たち」(JRタワープラニスホール / 札幌)

2018年「イメージフォーラム・シネマテーク No.1000 !8 to !!16」(イメージフォーラム・シネマテーク / 東京)

2017年「さっぽろアートステージ 2017」(札幌駅地下歩行空間チ・カ・ホ / 札幌)



4分25秒の映画

2019年 / 映像インスタレーション / スライドプロジェクター、カラーフィルター、Arduino、等

カーセル型スライドプロジェクター13台を逆さに設置した映像インスタレーション作品。

通常、カーセル型スライドプロジェクターは本体上部に取り付けたドーナツ型のカートリッジが回転し、一枚ずつスライドを送り画像を投影する。しかし、プロジェクターを逆さにすることで、カートリッジが地面に固定され、本体が回転する。プロジェクターが360度回転しながら画像を展示空間の壁面に投影する作品である。

また、作品名にある“4分25秒”はプロジェクターが360度回転するのにかかる時間である。フィルム映画は1秒間24コマ画像が再生されるが、この作品では1秒間およそ0.3コマという遅さで再生される。この作品は、プロジェクターを逆さにすることで時間と空間を変化させた作品である。



作品プレビューはQRコードからご覧いただけます。



フィルムの流れのように

2017年 / 映像作品・16:3 / 5分・ループ再生

8ミリフィルムが右から左へ流れる様子を撮影した映像作品。作品は大勢の人が行き交う札幌市営地下鉄のさっぽろ駅と大通駅を結ぶ地下通路に展示した。

作品には3つの時間が存在する。1つは流れる8ミリフィルムのフレーム内にあるフィルムカメラによって撮影された時間。2つ目はデジタルカメラでフィルムを撮影した時間(映像作品の実時間)。これはフィルムに付着したゴミや傷、フィルムの現像ムラが左へ流ることで確認できる。3つ目は地下通路を歩行する人の時間(展示空間の時間)。これら3つの時間を同時に知覚できる。



作品プレビューはQRコードからご覧いただけます。



Zoom in out

2018年 / 映像インスタレーション / 8ミリフィルム映写機、ステッピングモータ、Arduino等

改造8ミリフィルム映写機を複数台用いた映像インスタレーション。

映写機の映写レンズにはズームイン・ズームアウトを自動で繰り返す改造が施されており、その映写機から壁面に向かって拡大・縮小を繰り返す四角いフレームが投影される。複数の映写機にはそれぞれに拡大・縮小のリズムパターンが記録されており、それら映写機が投影するフレームが重なり合い、リアルタイムで抽象的な像を無限に生成する。



作品プレビューはQRコードからご覧いただけます。